

議題1 「令和元年度事業報告及び令和2年度事業計画について」

令和2年3月末現在の胎内市における65歳以上人口は10,145人、高齢化率は35.25%で、前年度末と比較して、55人、0.67%の増加となっている一方、要介護認定率は17.93%と前年度と比較して0.44%減少しています。

地域包括支援センターでは、いくつになっても、住み慣れた地域で、自分らしく、自立した生活が続けられるように様々な取組を行ってまいります。

令和元年度事業報告

1. 総合事業

- 短期集中的に行うサービスC事業では、自宅に訪問し、対象者の生活を踏まえた改善方法の助言・指導を行う「訪問型」と、他の参加者と交流しながら集団で介護予防に取り組む「通所型」を実施しました。維持改善率は、訪問型が75%、通所型が100%でした。【3～4ページ】
- 住民の皆さんが主体となって実施する「通いの場」は、立ち上げ支援を4箇所行い、継続実施は27箇所でした。通いの場の活動箇所は年々増加しています。【7ページ】
- 介護予防・生活支援拠点施設「健伸館」の令和元年度年間利用者数は5,626人で、前年度より1,977人増でした。令和元年度に新たに結成された生活支援ボランティアの活動拠点として活用されたことが、増加の要因として考えられます。【9ページ】

2. 包括的支援事業・任意事業

- 各包括支援センターでは、高齢者からの相談を受け付け、早期に対応できるよう、関係機関と連携しながら問題解決に取り組んでいます。令和元年度は8,747件の相談があり、件数は増加傾向です。特に、医療と虐待に関する相談で増加が見られました。【11ページ】
- 成年後見制度利用促進に向け、支援者の資質向上と連携強化を図る勉強会を開催しました。【13～14ページ】
- 地域ケア会議やケア向上研修会を通じて、介護支援専門員や介護保険事業所職員の資質向上に努めました。【15～16ページ】
- 認知症サポーター養成講座や「街あるき声かけ見守り模擬訓練」、認知症講演会、認知症カフェを通じて、認知症の方を見守り・支える地域づくりに取り組みました。【17、18、20ページ】
- 関係者と協議を重ね、「地域共生型認知症ケアパス」を作成しました。【20ページ】

令和2年度事業計画

1. 総合事業

- 新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながら、介護予防の取組を進めていきます。
- 介護予防把握事業を通じて、生活機能が低下している高齢者の把握に努め、速やかに、介護予防教室や必要な支援に繋げることができるよう取り組んでいきます。
- 「通いの場」の立ち上げ支援及び継続支援を、各地域包括支援センターや健康づくり課と連携しながら取り組んでいきます。

2. 包括的支援事業・任意事業

- 「福祉まるごと相談窓口」やその他機関とも連携を図りながら、気軽に相談できる場づくりと、問題の早期解決や社会資源の創出に取り組んでいきます。
- 主任介護支援専門員を中心に介護支援専門員の支援を行い、ケアマネジメントの質の向上を目指します。
- 「チームオレンジ」を新たに立ち上げ、認知症の人が地域で居場所を見つけ、活躍できる場づくりに取り組んでいきます。
- 認知症の人を支え見守る地域づくりのため、令和2年度は、築地地区を会場に「街あるき声かけ見守り模擬訓練」を開催します。
- 成年後見制度路用促進の取組を進めていきます。